

やさしい病害虫講座 18

「僕らは新興勢力！」

木村 裕

秋に栽培するアブラナ科野菜（キャベツ、ダイコン、カブ、ハクサイ）で勢力拡大中の害虫を紹介いたします。

害虫の世界も政治の世界と同じように世代交代があり、一時わが世の春を謳歌していた害虫も時代が変われば没落し、新しい害虫に取って代わられるようなことが起こっています。没落組の筆頭がハスモンヨトウ、新興組はハイマダラノメイガとダイコンハムシです。

秋のアブラナ科野菜栽培で最も恐ろしいのがハイマダラノメイガ、別名ダイコンシンクイの幼虫です。体長2cmにも満たない愛らしい？イモムシですが、名前の通りダイコンの芯の部分に食い込んで内部を齧ります。被害が軽い場合は新しい新芽が横から伸びてはきますが、生育が非常に遅れます。ひどい場合には新芽が現れず生育停止または枯れてしまいます。



昔は秋ダイコンでたまに発生する程度でしたが、最近はごく普通に発生し、しかもキャベツ、ハクサイ、カブラ、ハボタンなどにも縄張りを広げています。成虫は羽根を広げると1円玉くらいの大きさの褐色の蛾で、夜間に活動し新芽や新葉の裏にぼつぼつと卵を産みつけます。年に5~6回発生すると言われてはいますが、私たちの目に止まるのは8~11月です。卵からふ化した幼虫は新芽に食い込んだり、葉の中に潜ったりしますが、大きくなると葉を糸で綴り合せた巣を作り、食住に何の不自由もない恵まれた生活をおくります。唯一

うるさいのは栽培農家のおじさんです。



ダイコンハムシ、別名ダイコンサルハムシは大昔の教科書に載っていた害虫ですが、ほとんど姿が見られない害虫でした。しかし5~6年前からなぜだか急激に増え、勢力拡大中です。ダイコン、カブラなどを主食にしていたのですが、最近はハクサイで多発しています。葉にぼつぼつ孔があいておればこの虫の被害とみてよいでしょう。



成虫はマッチの頭くらいの大きさ、お椀をふせたような半球形で、青色に光輝いた綺麗な甲虫です。捕らえようとして手を触れると、やばいと感ずるのか手足を縮めてころっと転がり落ちます。幼虫は黄色ですが大きな黒い斑紋をいっぱいつけているために全体としては黒っぽい虫に見えます。体は柔らかくウジ状です。親子は仲よくハクサイの葉に小さな孔をあけ、その大きさを競っています。一族郎党寄り集まって柔らかい部分をかじるため、被害を受けた葉は硬い葉脈のみが残された透け透け状態になります。虫食い孔に気づいたら虫を見つけて捕殺しましょう。

